

# 1年間の取組み2025

KYUSAN Annual Report 2025

文理芸融合のグローバル総合大学へ

## KYUSAN Topics

教育分野	01・02
研究分野	03
国際化分野	04
産学連携分野	05
社会・地域貢献分野	06
ダイバーシティ分野	07
ブランディング分野	08
経営基盤分野	09
数字で見る実績	10
中期計画 第1フェーズ (2021-2025)の歩み	11・12



次代を描く感性、世界を動かす実践力

九州産業大学

九州産業大学造形短期大学部

## 教育分野



多様な資質を有する学生の獲得および文理芸が融合した実践力をみがく教育を実施する。

### 中期計画第1フェーズ2025年度までの目標

- ▶ アドミッション・ポリシーに沿った優秀な学生の獲得
- ▶ 実践力を育成する教育プログラムの推進
- ▶ 新時代に対応した教育プログラムの開発
- ▶ 学年暦の柔軟化
- ▶ 教学マネジメントの確立
- ▶ 学生の満足度を向上させる支援の実施
- ▶ ポストコロナ時代へ対応した支援の実施
- ▶ 高等教育機関としての学び直しの推進

### 理工学部 半導体・電子デバイス教育の学内外連携による推進 【2026年4月】新・理工学部の誕生 — 情報 × 機械・電気の融合教育へ

理工学部では、半導体人材の需要拡大を背景に、半導体・電子デバイス分野の人材育成体制を整備しています。本学では、文理芸の学生が共に学ぶことができ、各学部学科の専門性を基盤としながら、半導体産業で求められる文理芸融合の付加価値を備えた教育を実施。地元企業と連携した実践的な講義の実施に加え、高校生向け模擬講義・ワークショップも開催するなど、次世代の育成に向けた取り組みにも注力しています。

また、2026年4月に、従来の情報科学科に加えて、機械電気創造工学科およびスマートコミュニケーション工学科の2学科を新設しました。新設の2学科では、複数の分野を希望する領域を系統立てて学ぶことができ、学生は専門分野の知識を深めながら、異分野を専攻する学生との協働プロジェクトにも参加できます。情報・機械・電気の融合を軸とした次世代型教育体制を構築し、産業界や社会の変革に対応できる高度専門人材の育成を目指します。



半導体・電子デバイス実験室

### 生命科学部における実践的な商品開発の推進

生命科学部では、研究サークル「化粧品開発研究会」が、オリジナル化粧品の開発に取り組んでいます。

学生は、同世代の肌トラブル解決をテーマに、数ある成分の中から配合や効果検証を行い、化粧水「アクアレラローション」と保湿リップ「華馬〈HARUMA〉」を開発。福岡クリスマスアドベント会場での販売も行うなど、商品化から販売に至るまでの一連の工程を学生が主体となって実施しました。

今後も、学生の視点を活かした商品開発を通して、専門知識と実践力の向上を図り、学部ならではの特色ある教育を推進していきます。



## 志賀島の歴史を紡ぐお守りを制作「OMAMORI PROJECT」

地域づくり、経済、商学など、各専門分野を学ぶ学生たちとデザインを学ぶ造形短期大学部生が集まり、志賀島の歴史と文化を未来へと繋ぐオリジナルお守りを企画・デザインしました。

学生たちはそれぞれの専門性に合わせ役割分担を行い、企画・プロモーション考案とデザイン探究をそれぞれ担当。学びを実践的な場で活かす力を身に付けました。

今後も、各専門分野の視点を活かした学部横断型の実践的なプロジェクトを推進していきます。



## 戦後80年、被爆者の想いを絵画に「被爆体験絵画プロジェクト」

芸術学部では、学生が被爆者本人から当時の場面や状況を聞き取り、絵画として描く「被爆体験絵画プロジェクト」に取り組みました。

今年度で3年目となる本プロジェクトでは、言葉や写真だけでは伝えにくい当時の場면을絵画で表現し、後世に戦争の記憶を伝え続けることを目指しています。

作品は、北九州市平和のまちミュージアムにて展示されたほか、今後は証言活動時の説明資料として活用される予定です。



## 多様な活動を支援する課外活動の推進

本学では、学生の課外活動にも力を入れています。人間科学部の豊里 凜さんは、「2025東京デフリンピックバスケットボール競技」において、女子日本代表として出場し、金メダル獲得に大きく貢献しました。

また、理工学部の学生は、走行ロボットの設計および制御をチームで競う「ETロボコン2025チャンピオンシップ大会アドバンストクラス」競技部門において、優勝を果たしました。今後も、本学は多様な課外活動を推進し、学生の挑戦を支援していきます。



人間科学部  
豊里 凜さん

ETロボコン2025大会の様子

## 生成AIを活用した社会人向け実践型プログラム

本学では、(株)QTnetと連携し、生成AIに関する講座を開講しました。

「明日から使えるビジネスへのAI活用 基礎講座」では、ビジネスにおけるAI活用に関心のあるすべての方を対象に、生成AIを活用した課題解決や業務効率化の手法について、ワークショップやディスカッションを交え実践的な形式で行いました。

「AIモデル完全攻略講座」では、AIの基礎知識を有する方を対象に、AIやプログラミングの基礎的な知識から応用スキルまで、講座ごとに異なるテーマで体系的な学びを提供しました。

今後も、生成AIの活用を通じて、地域のデジタル人材育成を推進していきます。



## 研究分野



研究力の向上を目指すとともに、教育研究体制の充実を図る。

### 中期計画第1フェーズ2025年度までの目標

- ▶ 文理芸を融合した学際的研究の推進
- ▶ 研究実績の拡大
- ▶ 産業界と連携した研究の推進
- ▶ 優秀な大学院生の獲得
- ▶ 大学院の改革

### 研究成果の社会実装による地域の公共交通支援

理工学部の地域公共交通運行管理支援グループが、宗像市と宮若市を結ぶバス路線「宮若・宗像線」向けのGTFS-JP(公共交通オープンデータ)形式によるデータ作成支援を行いました。

これによりバス路線「宮若・宗像線」が、Google マップの経路検索に反映され、スマートフォンやPCからバスの経路や時刻を確認することが可能となりました。

今後も、研究成果の社会実装を行い、地域の利便性向上に貢献していきます。



### 地球温暖化対策のために温室効果の低い冷媒開発に向けた研究「世界で最も影響力のある研究者トップ2%」に選出

理工学部では、地球温暖化対策のために、温室効果の低い冷媒開発の研究を進めています。

特に、新しい家庭用エアコン用の冷媒の開発を目指し、エアコンや冷凍機に使われている冷媒というガスの物性(蒸気圧や密度、比熱など)を正確に計算できる「式」や「プログラム」の開発に取り組んでいます。

これらの取り組みが高く評価され、本学理工学部の研究者が「世界で最も影響力のある研究者トップ2%」\*にランクインしました。

今後も、各国の研究者とともに世界共通の規格やソフトウェアを開発し、温室効果の低い冷媒の実用化を目指します。

\* Updated science-wide author databases of standardized citation indicators



選出された 機械電気創造工学科 赤坂 亮 教授

### 学生参加型の共同研究プロジェクトを推進

学生が教員とともに研究活動に取り組む学生参加型の受託・共同研究プロジェクトを推進しています。企業との共同研究への主体的な参画を通して、専門性と実践力の育成につなげています。

#### <主な共同研究プロジェクト>

未来のモビリティ体験を学生の視点から創出するプロジェクト  
芸術学部 × スズキ(株)

学生が考える未来の車のUX(ユーザー体験)をデザインに落とし込み、3Dモデリングとプレゼンテーションを通じて提案を行うプロジェクト

フカヤ株式会社本社の執務環境の再生を目指した空間デザインプロジェクト  
建築都市工学部 × フカヤ(株) × (株)総研

老朽化した本社建物の一部(社員執務フロアや休憩室等)の試験的なリニューアルを考え、提案を行うプロジェクト

## 国際化分野



留学プログラムの充実を図り、様々な海外経験を通じて、グローバル人材の育成を目指す。

### 中期計画第1フェーズ2025年度までの目標

- ▶ 国際感覚を養うプログラムの展開
- ▶ 学生の海外経験の増加及び留学支援体制の強化
- ▶ 優秀な留学生の獲得及び支援の強化
- ▶ 海外大学・組織等との連携の強化
- ▶ 国際化を推進する体制の整備

### 国際学会「Global Hospitality and Tourism Research Summit-Fukuoka」開催

観光におけるイノベーション、競争力、持続可能性をテーマにした国際学会を本学で開催しました。

本学会はセントラルフロリダ大学(米国)との共催で行い、世界40ヵ国から200名を超える参加者を迎えました。

観光学の最新の研究結果や実践について議論が行われ、国際的な研究交流の促進にもつながる機会となりました。



### 他大学と連携したグローバル人材の育成 海外派遣を通じた国際教育の推進とグローバル人材育成の展開

本学では、海外大学が提供する教育プログラムへの学生派遣を通じ、学生の国際的な視野の獲得と語学力向上を図っています。

2025年度は理工学部の学生が、スタンフォード大学でのサマーセッションに本学から初めて参加。英語力の向上だけでなく、世界的な課題についても学びを深め、国際的な視野を身に付けました。

今後も、学生派遣を推進し、グローバル人材の育成を目指します。



派遣中の現地での様子




### 海外大学との連携を強化

本学では、海外大学との国際交流協定締結を推進し、連携の強化を図っています。協定校との共同教育や研究を進めるとともに、COIL型教育\* や現地活動を組み合わせた取り組みにより、グローバル人材の育成に注力しています。

この他にも、今後は外国人留学生の受け入れも促進し、大学間の相互交流を通じて、学術的かつ国際的な関係の構築を目指します。

\* オンラインを活用し、自国にいながら海外大学と交流できる新たな双方向型の教育手法

#### <主な新規協定校>

建陽大学校(韓国) 	セントラルフロリダ大学(アメリカ) 	ピレネー高等美術デザイン学校(フランス) 
韓国西部に2つのキャンパスをもつ総合大学。本学地域共創学部およびグローバル・フードビジネス・プログラム(GFBP)と連携し、地域・観光振興についての交流会を実施しました。	フロリダ州オーランド拠点の州立大学。本学地域共創学部と連携し2025年5月に国際学会を共催しました。	フランスのポーとタルブに拠点を置く公立の芸術・デザイン高等学校。アート・陶芸・グラフィックデザインを専門とし、約250名の学生にEU認定の国家資格を授与しています。

# Industry-Academia Partnership

## 産学連携分野



企業との共同研究や、大学発ベンチャーの設立など研究成果の社会実装を目指し、産学連携を強化する。

### 中期計画第1フェーズ2025年度までの目標

- ▶ 社会性の高い研究の促進
- ▶ 産学官連携を強化するネットワークの構築
- ▶ 大学発ベンチャーの育成

### URA 起点の産学官連携による地域共創プロジェクトの展開

本学では、専門人材URA\*を起点として、自治体との連携深化による産学官連携プロジェクトを推進しています。

「KSUちはやサービスエリア」プロジェクトは、福岡市の「ガーデンズ千早ちはや公園」で、九州各地の魅力を発信する期間限定アンテナショップを企画・運営するプロジェクトです。

今年度は全4弾/4自治体を展開。大分県佐伯市をはじめとする4つの自治体と地域共創学部、商学部、芸術学部の学生が連携し取り組みました。学生は、店舗運営や店舗の空間デザイン、ポスター制作などを行い、各専門分野の学びを実践に活かしました。

今後も、産学連携を通じて学生の実践力を育成し、地域社会への貢献を図っていきます。

\* ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター。研究活動の活性化、研究プロジェクトの管理、外部資金獲得などを支援する人材



### 学部横断型プロジェクトによる地域の魅力発信アプリの開発

理工学部と芸術学部の学生20名が、九州旅客鉄道(株) (JR九州)と連携し、デジタル駅スタンプ収集アプリ「かしい線 de DENCHA旅」を開発しました。

香椎線沿線の魅力発信を目的に、理工学部の学生がQRコードを読み取ると駅スタンプを収集できるアプリ開発を、芸術学部の学生が地域の歴史や名所をモチーフにしたスタンプデザインを考案。専門分野の異なる学生同士が意見交換を重ね、共同でアプリを完成させました。

アプリの配信開始により、香椎線沿線の魅力発信及び地域の活性化を促進。今後も、学部間が融合した産学連携に取り組みます。



App Storeよりダウンロードできます



### 芸術を通じた社会連携とSDGs 推進に向けた取り組みの展開

芸術学部の学生が、芸術を通じた地域との社会連携やSDGsに関する取り組みを行っています。

「ふくおか県芸術文化祭」では、会場空間のデザインを担当し、来場者の動線や視認性に配慮したブースレイアウトや看板の設置方法を提案しました。また、福岡県をテーマにした「ふくおかるた」も制作。福岡の魅力を絵と言葉で表現するとともに、イベントでは来場者が実際に体験できるブースを提供しました。

この他にも、障がいのある人たちのアート作品「まごころアート」をもとにした缶バッジ制作体験を実施し、その収益をポリオ根絶を目指す活動へ寄付するなど、SDGsに繋がる活動にも取り組んでいます。



## 社会・地域貢献分野



地域の課題解決に向けた取り組みや本学施設を利用した交流などを通じて、地域に貢献する大学を目指す。

### 中期計画第1フェーズ2025年度までの目標

- ▶ 地域社会の課題解決へ向けた貢献活動の推進
- ▶ 本学の施設を活用した地域との交流
- ▶ 地域に向けた知の発信

### 将棋を通じた地域の子どもたちとの交流を育む公開講座の実施

近隣地域の小中学生を対象に、「夏休み子ども将棋教室」を主催しました。

QTnet将棋センター協力のもと、本学将棋愛好会および九州産業大学附属九州産業高校将棋部の計20名が運営スタッフとして参加。小学校1年生から中学校3年生まで計86名が参加し、将棋を通じた交流を楽しみました。

この他にも、本学では子どもから高齢者に至るまで幅広い年齢層を対象に、大学の教育・研究等の知的財産を社会に還元するため、年間を通して公開講座を開講しています。



### 地域の課題解決に繋がる活動を展開 地域貢献と復興支援を担う学生ボランティア活動の推進

本学では、復興支援ボランティア活動や地域社会の課題解決に貢献するボランティア活動に取り組んでいます。

福岡トライアスロン2025では、学生110名が大会運営や海岸清掃のボランティア活動に参加。また、サッカー部は、豪雨で被災した福津市の農園で、復興支援のボランティア活動を実施しました。

参加した学生は地域課題に直接向き合うことで、災害復興や地域振興の重要性を再認識。これらの活動が主体的に行動する姿勢を身に付ける機会となっています。

今後も、社会や地域に寄り添ったボランティア活動を推進し、地域社会への貢献を目指します。



### 大学施設を活用した地域連携スポーツイベントの実施

本学健康・スポーツ科学センターおよび人間科学部がアビスパ福岡スクールならびにギラヴァンツ北九州スクールと連携し、本学陸上競技場にて、小学生対象「1DAYサッカークリニック」を開催しました。

イベントには、地域の小学生サッカーチームに所属する子どもたち55名が参加。シュートやドリブルなどの技術指導の体験やトレーニングマッチを実施し、参加者は意欲的に取り組みました。

今後も、本学の施設を活用し、学内外の多くの方が参加できる取り組みを展開していきます。



# Diversity

## ダイバーシティ分野



多様な人々が集い学ぶインクルーシブな大学運営を行う。

### 中期計画第1フェーズ2025年度までの目標

- ▶ 男女共同参画社会を担う学生の育成
- ▶ 多様な学生への支援
- ▶ 多様な教職員の参画機会拡大

### 多様な学生が学びやすいキャンパス環境を整備

本学では、すべての人が安心して利用できるキャンパス環境の整備に取り組んでいます。

2025年度は、バリアフリーに関する環境整備として、車いす利用学生のヒアリング結果をもとに、各建物のエレベーターに「優先サイン」表示の設置や、弱視者の人も認識しやすい大きめのピクトマークを追加した「弱視者に配慮したサイン」の改修等を行いました。

また、便座に座る際に姿勢を安定させたり、転倒を防いだりする「だれでもトイレの便座背もたれ」を設置しました。

今後も、誰もが学びやすく、過ごしやすい大学を目指し、施設面の改善を継続的に進めていきます。



### インクルーシブな環境づくりの推進

多様な性のあり方を認め合う大学・組織づくりを促進するため、「性の多様性(LGBTQ+)に関する基本的な考え方」を制定しました。

この基本的な考え方には、学生や教職員及び関係者の多様な性に関する理解を深め、全ての人の自己決定を尊重することや、性自認や性的指向などを理由とした差別やハラスメントを許容しないことなどを盛り込みました。

今後も、性の多様性に関する勉強会や研修会を開催して学内外の理解促進を図り、誰もが安心して自分らしく過ごすことができる環境づくりを推進します。

#### 【性の多様性に関する基本的な考え方】

1. 差別やハラスメントの禁止
2. 教育・啓発活動の推進
3. 多様な性のあり方への理解と自己決定の尊重
4. 個人情報の適切な管理

### 女性教員やキャリア採用者のネットワーク構築を支援

女性教員のキャリア形成支援とネットワークの構築を目的に、グループメンタリング(交流会)を実施しました。

グループメンタリングでは、設定したテーマに基づくディスカッションを実施。新任女性教員と先輩女性教員の交流を深め、着任後の不安や悩みの解消を図るとともに、速やかに環境に慣れ、教育および研究活動に専念できるよう支援しています。

この他にも、キャリア採用の事務職員に対しても交流会を実施し、業務理解を深める機会の創出やネットワーク構築の支援を行っています。



キャリア採用の事務職員対象の交流会の様子



本学ならではのブランドイメージを発信し、産業界や地域への広報・広聴活動を拡充する。

### 中期計画第1フェーズ2025年度までの目標

- ▶ 本学ならではのイメージ構築
- ▶ 産業界や地域への広報・広聴機能の拡充

### ブランドイメージを象徴するビジュアルアイデンティティの刷新

新ブランドイメージを象徴する新たなブランドマークへの刷新を行い、2026年4月より展開しています。

新ブランドマークは、本校校章のモチーフである楠の葉と椎の葉、そして円のフォルムから着想を得て、「産と学」、「感性と実践力」といった本学の特長と人々のつながりを象徴的に表現。外部発信により本学の姿勢や魅力を広く伝え、ブランド価値の向上を図ります。

この他にも、新ブランドメッセージ「次代を描く感性、世界を動かす実践力」を視覚的に表現したブランドムービーを制作し、ホームページやCM等で発信。文理芸の融合による学びや実践型プロジェクトを通じた社会連携の強みを表現しています。

今後も、ブランド価値の向上とブランドメッセージの浸透に向けた取り組みを加速していきます。

大学公式YouTubeチャンネルよりご覧いただけます



新ブランドマーク

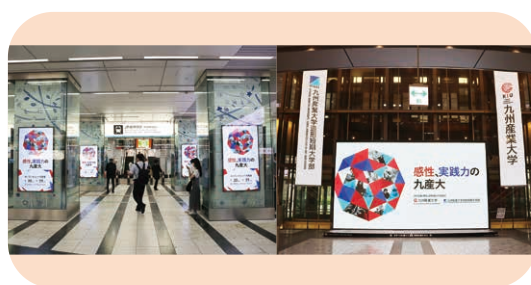


### ブランドメッセージ浸透に向けたクロスメディア広報展開

新ブランドメッセージの浸透を図るため、学内外で多様なプロモーション施策を展開しました。

学外では、JR博多駅1階コンコースをビジュアル広告でジャックし、ブランドムービーなどをデジタルサイネージや大型ビジョンを使って紹介。学内では、教育改革の歩みやブランドメッセージ、グローバル教育の取り組みを紹介するヘリテージコーナーを2カ所に設置しました。

今後も、来訪者や学生に本学の魅力を発信する広報展開を進めていきます。



### 鈴懸とコラボした学園オリジナル記念品で本学の魅力発信

本学客員教授で博多人形師の中村信喬氏と、博多老舗和菓子店「鈴懸」が連携し、学園オリジナルの手土産(菓子折り)を制作しました。

本企画のために、「鈴懸」のこだわりである掛け紙の挿絵を中村信喬氏に依頼し、博多の伝統文化と本学の個性を融合した象徴的なアイテムとして仕上げました。

今後は、本手土産を活用し、本学の魅力発信と地域の連携強化につなげていきます。



九州産業大学

中村信喬氏デザインによる掛け紙



大学運営の基盤強化および職員のさらなる能力向上を目指す。

### 中期計画第1フェーズ2025年度までの目標

- ▶ 継続的な組織改革
- ▶ 教員組織の充実
- ▶ 業務改革・効率化
- ▶ IR機能の強化
- ▶ 同窓会・卒業生との関係強化
- ▶ 事務職員の能力開発
- ▶ ガバナンスの強化
- ▶ 財政基盤の一層の強化
- ▶ 将来を見据えたキャンパス整備

### 中期計画第2フェーズの策定

本学の中期計画(2021-2030)に掲げる目標「文理芸融合のグローバル総合大学へ」の実現に向け、中期計画第2フェーズ(2026-2030)を策定しました。

第2フェーズでは、第1フェーズ(2021-2025)の成果を基盤として、文理芸融合を中核とした教育研究や、国際化やテクノロジー活用の方針をさらに深化させます。また、外部環境の変化に対応しながら5つの基本戦略に基づく取り組みを加速していきます。

#### 5つの基本戦略



### 事務職員採用業務プロジェクト「TALENT RISE PROJECT」始動

若手職員が主体となって採用活動に参画する学内公募型プロジェクトを始動させました。

本プロジェクトは、将来の大学運営を担う人材の確保と採用活動の充実を目的とするもので、若手職員がチームを編成し、事務職員採用ホームページの企画・制作をはじめ、インターンシップの企画・運営や採用選考などに取り組みます。

採用活動への主体的な参画を通じて、職員の成長と組織横断的な連携を促進。本学の魅力をより効果的に発信していきます。



### 柔軟な働き方を実現する職場環境の整備

本学では、働き方改革及び業務効率化の観点から、事務職員全員を対象にテレワーク制度を導入しています。本制度の導入により、通勤時間の削減や出張時の時間の有効活用が図られ、業務効率が向上。家族の体調不良などの急な予定変更にも柔軟に対応でき、より働きやすい環境が整いました。この他にも、学内にはテレワークに対応した専用スペースも整備され、働く場所の選択肢が広がりました。

さらに、事務職員全員に業務用スマートフォンが貸与され、場所を問わず学内システムにアクセスができるようになり、業務の効率化が進みました。加えて、学内外の連絡手段の一元化により、従来よりも通信環境の利便性が向上しています。



学内のテレワーク専用スペース「ジムコ」



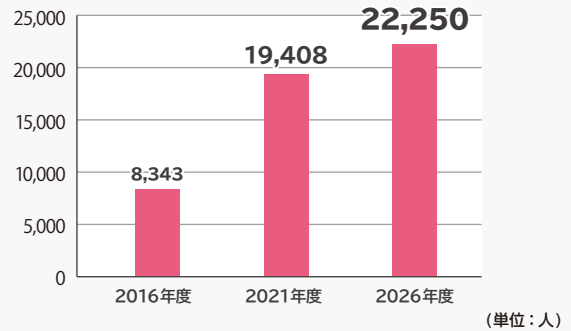
# 数字で見る実績

## Q 志願者数

オープンキャンパスやキャンパスセミナー等、各種イベントの実施を通じた募集活動の強化により、志願者数は22,000人を超えています。今後も、多くの方に選ばれ続ける大学を目指し、教育研究活動の活性化や本学ならではの魅力発信に取り組みます。

※ 2026年度：2026年度4月入学希望の志願者数

10年で  
約14,000人増加

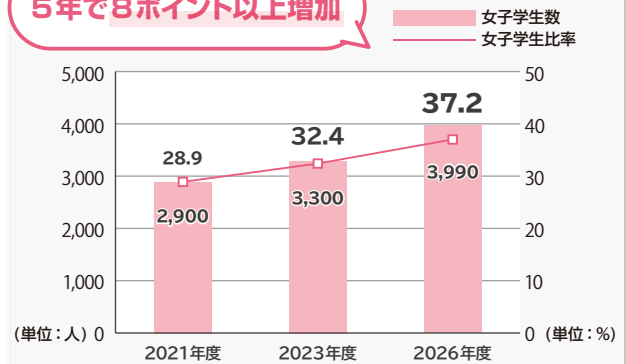


## Q 女子学生比率

女子学生比率は、2021年度の28.9%から2026年度には37.2%となり、過去5年間で着実に上昇しました。本学では、学生の意見交換を通じた多様なニーズへの対応や、男女共同参画の視点に立ったキャリア教育等の推進により、多様な学生が安心して学べる環境づくりを進めています。

※ 2026年度：2026年5月1日現在の女子学生比率

5年で8ポイント以上増加

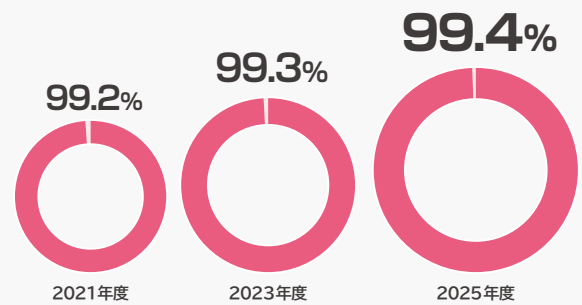


## Q 就職決定率 (対就職希望者)

就職決定率は、過去最高水準を維持し、99.4%となりました。キャリア支援センターを中心に、各種資格取得講座や、学内合同企業研究会、本学主催のインターンシップ等、学部や学年に合わせた多種多様な就職支援プログラムを展開。学生の就職活動を全面的にサポートしています。

※ 2025年度：2026年5月1日現在の就職決定率 (対就職希望者)

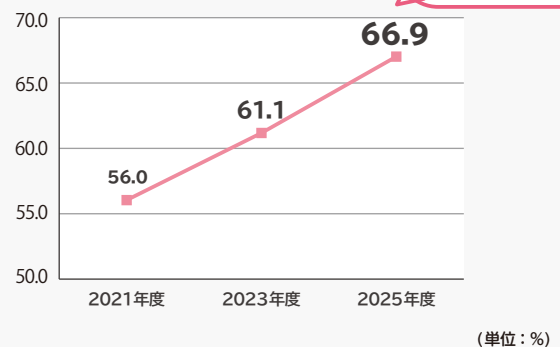
過去最高水準  
を維持!



## Q サークル加入率

課外活動支援や広報活動の強化により、サークル加入率は着実に向上しており、2025年度には約3人に2人の学生がサークルに加入しました。今後も、課外活動の活性化や参加機会の充実を図るとともに、多様な学生が主体的に活動できる環境づくりを推進していきます。

約70%の  
学生が加入



# 九州産業大学 中期計画 (2021-2030) 文理芸

## 第1フェーズ (2021-2025) の歩み

2021年度に始動した中期計画第1フェーズでは、教育・研究・国際化・産学連携をはじめとする各分野において体制整備と取り組みの拡充を進めてきました。文理芸融合を軸とした教育改革やリスキリング教育の展開、海外大学と連携した教育プログラムの開設、産学共創体制の構築など、教育・研究の充実と社会との連携強化を段階的に推進。第2フェーズへとつながる土台を確立しました。

## 2021

### 2025年度目標に向けた基盤整備

- KSU 基盤教育の再構築  
～文理芸融合の横断型教育の推進体制を整備～
- 新時代に対応した魅力ある教育プログラムの構築  
(AI・データサイエンス副専攻/グローバル・フードビジネス・プログラム)
- 社会人の学びを支援するリカレント教育の開設  
(免許法認定講習)
- 国際感覚を養うプログラムの展開  
～国外研修の代替措置として、オンライン型国際協働学習を実施～
- 「オープンイノベーションセンター・インスペース」福岡市の特定創業支援等事業の事業者に認定
- 「SDGs学長宣言」の制定  
～SDGsの実現に向けた全学的取り組みを推進～
- 設置\_アドバイザーボード  
～産業界への広聴活動を強化～

## 2022

### 学部横断型教育の展開

- 新設\_文理芸融合型教育  
クロス科目(学部横断型授業)  
コラボ科目(学部協力型授業)
- 新設\_AI・データサイエンス副専攻  
～全学部対象に導入から応用レベルまで、体系的に学ぶ～
- 「第1回 KSU VISION DAY」開催  
～産学官連携プロジェクトを地域社会へ発信・研究活動を活性化～



- 多様な学生に対応した相談・支援体制の整備  
～ダイバーシティ推進シンボルマークを発信～



- イメージを統一した広報活動の展開  
「超えるを学ぶ」



## 20

### 教育プログラ 国際化の推進

- 新設\_アドバンスト  
～やる気のある学  
特別教育～
- 新設\_グローバル・  
プログラム  
～フードビジネスの



- 導入\_スタンフォード  
連携プログラム  
「Stanford e-



- 国連世界観光機関  
認証(TEDQUAL)

- 2025クォーター  
学的な教育改革の  
(新カリキュラムの

- 観光分野の社会  
開講

# 融合のグローバル総合大学へ

## 23

### プログラムの拡充と

プログラム  
生に伝える少人数

### フードビジネス・

グローバル人材を育成～



ド大学SPICEとの

KyuSan-UJ



(UNWTO)観光教育  
の取得

制導入を見据えた全  
推進  
構築等)

人リスキリング教育の

## 2024

### 文芸融合教育の発展と 大学運営体制強化

- 文芸融合のプロジェクト型教育  
東京ゲームショウの学生コンテストで  
「最優秀ゲーム賞」受賞



- AI・データサイエンス副専攻プログラム  
を延べ約5,000人の学生が受講

- 大学運営体制の強化  
新設

- ・「インクルージョン支援室」  
～様々な学生の学修の機会均等や学修  
目標への到達を支援する体制を整備～
- ・「アート&デザイン研究センター」  
～地域やグローバル社会における  
文化芸術を振興～
- ・「産学共創・研究推進本部」  
～産業界や地域社会との連携・研究活動  
を一体的に推進～

- 大学発ベンチャーの育成  
～オープンイノベーションセンターでの  
起業支援により2名の学生が起業～

- 新ブランドメッセージの決定  
「次代を描く感性、世界を動かす実践力」



## 2025

### 教育改革の実装と 第2フェーズへの展開

- 導入\_クォーター制プラットフォーム  
～4期制の導入で、学修効果の向上・海外  
経験の増加へ～

- 理系人材の育成強化

- ・理工学部新学科「機械電気創造工学科」  
「スマートコミュニケーション工学科」の  
2026年4月設置が決定
- ・新設 SMARTFusion プログラム  
クリエイティブセンター コラボリウム



- 生成AIに関するリスキリング講座の開講

- 海外協定校数が37校に到達  
(第1フェーズ目標達成)

- 全学的なアントレプレナーシップ教育  
の展開

- ブランドマークを刷新・展開開始



- 中期計画第2フェーズの決定

## 第2フェーズ(2026-2030)へ

# 次代を描く感性、世界を動かす実践力



次代を描く感性、世界を動かす実践力  
九州産業大学  
九州産業大学造形短期大学部

〒813-8503 福岡県福岡市東区松香台二丁目3-1  
TEL (092) 673-5505 / FAX (092) 673-5025 / E-mail kikaku@ml.kyusan-u.ac.jp

大学公式 SNS 発信



kyushusangyo  
university



九州産業大学



九州産業大学



@kyusan\_kouhou



2026年5月発行 総合企画部企画課